


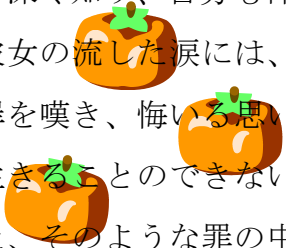
## 説教要旨 「あなたの罪は赦された」

ルカによる福音書7章36～50節



ここに登場する女性は、イエス様の足を自分の涙でぬらし、髪の毛でぬぐい、イエス様の足に接吻して香油を塗りました。この女性は、「罪深い女」でした。どのような罪を犯していたのかは分かりませんが、町中の人から「罪深い女」として見なされ、彼女もまた、自身の罪深さを自覚していたのです。

その様子に不満を抱くファリサイ派のシモンに、イエス様は一つのたとえ話を語られました。ある金貸しから、一人は五百デナリオン、一人は五十デナリオンの金を借りていた。返すことができなかったので、金貸しは二人の借金を帳消しにしてやった。二人の内どちらが多くその金貸しを愛するだろうか、という問いかけです。ここでの五百デナリオンと五十デナリオンの違いは自分の罪をどれだけ認識しているかの違いです。私たちが犯している罪は、誰でも皆同じです。しかし私たちは、そのことになかなか気づきません。自分が、自分ではどうてい返すことのできない負債を神様に対して負っているとはなかなか思わないのです。自分の罪を深く知る人ほど、それを赦して下さる神様の愛をより深く知り、自分も神様を深く愛するのです。



彼女の流した涙には、いろいろな思いが込められていたことでしょう。自分の罪を嘆き、悔いる思いも勿論あったし、罪を意識しながらもその罪の中でしか生きることのできない自分を情けなく思う気持ちもあったでしょう。しかしまた、そのような罪の中にある自分を受け止めて下さるに違いない主イエスへの深い信頼もあったのです。彼女の涙はイエス様への深い信頼の現れでもあるのです。そして彼女は、自分にできる精一杯のことをして、イエス様に尽くし、仕えたのです。イエス様はその彼女の思いの全てを受け止めて、「わたしに示した愛の大きさ」と言って下さったのです。

自分ではもはやどうすることも出来ない。ただ主にすぎるほか無かった。そんな彼女の思いを、イエス様はすべて受け止めて、大きな愛だとだと認めてくださったのです。



(2018・10・21 説教者：稲垣真実)